

若者交流の輪 山形に広がれ

県が支援している「ふくい若者チャレンジクラブ」は、交流の輪を県外にも広げる。県内の学生グループなどが8月、「自立と分散で日本を変える」と知事ネットワークで連携している山形県を訪ね、現地の若者グループと2日間にわたり交流事業を展開。本県の観光や特産品などをPRする一般向けのイベントを共同企画し、まちづくりをテーマに意見交換する。(伊豆倉知)

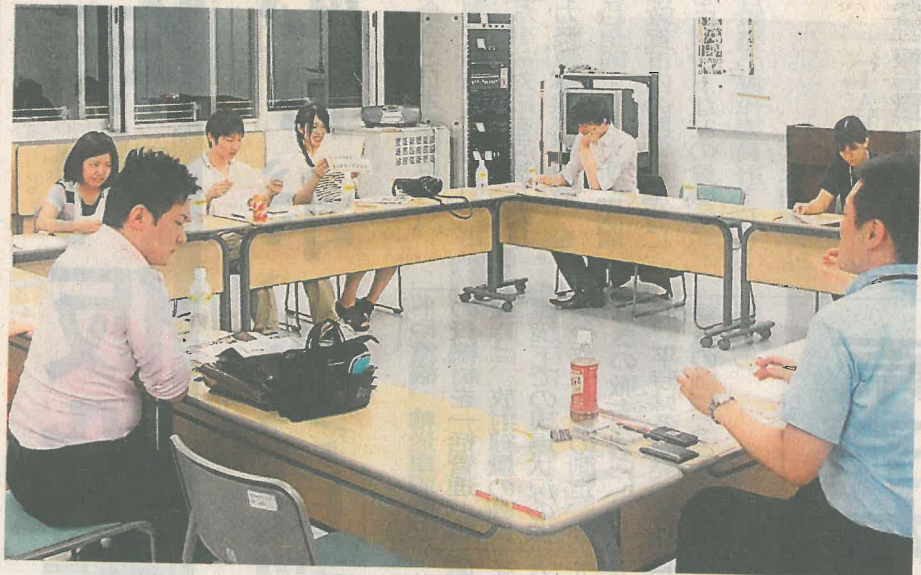
県支援「チャレンジクラブ」

福井県の若者チャレンジ支援室が、若者の活動を熱心に後押ししている山形県に呼び掛けて実現した。県内からはJR福井駅前の活性化を目指す「福井大EM P実行委員会」や鯖江市のまちづくりに取り組み「学生団体with」などから20〜30代の約20人が8月4、5の両日、山形県を訪

学生グループ来月訪問

問する。山形からは35人が参加する予定。

4日は同県南陽市の中央公民館でイベントを共同開



催し、福井側は観光や特産品、県立恐竜博物館をPRする。男女が協力して家事に携わる風土をつくらんと

観光、特産PRへ 共同催し

山形県の若者グループと共同開催するイベントの打ち合わせを行う福井大生ら117月10日、福井市のアオッサ

発表と意見交換もある。

5日は、山形市の若者グループ「城下町やまがた探検隊」などと意見交換会する。地元民芸芸能をお互いに紹介、福井の若者は鯖江市無形民俗文化財「やしき踊り」を披露する。

「昭和ミニ資料館」を核とした昭和の風情を残した街づくりに取り組み、2006年に中小企業庁の「がんばる商店街7選」に選ばれた高島町の昭和縁結び通り商店街も視察。山形県が委嘱する「まちづくりサポーター」で昭和縁結び通り振興会の古川和夫専務理事から話を聞く。

県若者チャレンジ支援室の新河戸繁大室長は「まちづくりについて山形の若者と話し合うことで今後の活動に生かしてほしい。山形とはフェイスブックを活用して今後も交流を続けた」と話している。

人口流出対策として若者活動を支援する山形、福井両県の青年交流事業が4日、南陽市で始まった。福井県でまちおこしに取り組む20～30代の3団体

16人が来県し、初日は同市の若者グループと共同でそれぞれの特産品をアピール、若者活動の活性化につなげる方策について情報交換した。

学ぶ地域づくりの視点

福井の若者来県、南陽で交流

特産品PRや情報交換



福井県と南陽市の若者グループが協力して作った芋煮を来場者に振る舞った

＝南陽市中央公民館

域おこしの一環で栽培に取り組むカボチャやご当地ヒーロー、福井県側は国内最大級の恐竜博物館、特産の福井梅をアピールした。昼食は参加者が協力して作った芋煮を来場者に振る舞った。

「ふくい若者チャレンジクラブ山形交流ミツション」の加藤優翼団長(21)「福井大3年」は「山形の若者からまちづくりの手法を吸収し、地域活動に生かしたい」、南陽市の若者グループ「HOPE」の加藤健

山形、福井など12県知事

支援事業を展開している。

でつくる「自立と分散で日

今回、若者たちに古里に住

本を変えるふると知事ネ

む意義、地域づくりの方策

ットワーク」を通して交流

を考えてもらう機会を設定

がある両県が初企画。人口

たい」と語った。

の県外流出という共通課題

福井県の16人は最終日の

を抱える両県は、共に若者

5日、県内の若者グループ

が地域で活躍できる環境を

など意見交換した後、山

民館で、それぞれの特産品

形花笠まつりのパレードに

整え、定住促進を図ろうと

などをPR。南陽市側は地

参加する。

◎福井と山形の若者が交流＝「ふるさと知事ネット」事業で

福井県と山形県は4日から2日間にわたって、両県の若者同士が地域活性化や仲間づくりについて学び合う交流事業を初めて山形県内で開催した。地方の12県知事で作る「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」のつながりをきっかけに事業化したもので、地域活動を主体的に担う若い人材を育成する狙い。



今回の企画では、福井県の大学生や地域活動に携わる10～30代の16人が山形県を訪問。初日は南陽市の若者グループと共にイベント運営を手掛け、互いの特産品をPRし合うなどした。

また、一行は5日には山形県庁の若手職員5人とも交流。グループワークを通して互いのまちづくり活動やボランティア活動、祭りの運営経験などを紹介し、情報交換を行いながら交流を深めた。さらに、夕方には山形市内で開催された「花笠まつり」のパレードにも加わり、福井県をPRする上り旗を掲げながら花笠踊りを披露した。

参加した福井市の大学生加藤優翼さんは、「山形の人たちとの交流で学んだことを戻って伝えたい。出会った人とは今後も情報をやりとりしてきたい」と語っていた。

(了)

写真：まちづくりの取り組みなどについて意見交換する福井、山形両県の若者たち＝5日午後、山形市（松本亜夕美撮影）

福井の若者 山形で交流

催し共同開催、祭り参加



山形花笠まつりに参加する「ふくい若者チャレンジクラブ」のメンバーら＝山形市

県が支援する「ふくい若者チャレンジクラブ」のメンバーが4、5の両日、山形県を訪ね、現地

の若者グループと交流した。イベントを共同運営

したり意見交換するなどして、まちづくりへの意欲を高めた。

「自立と分散で日本を変える、ふるさと知事ネットワーク」を通して交流があり、若者の力を生かして地域活性化に取り組む両県が初めて企画。本県からは若者グループ3団体などから10〜30代の16人が参加した。

4日は南陽市を訪問し、同市の若者約20人とサマーフェスティバルを

共同開催。互いに古里の魅力を来場者にアピールし、福井の若者は県立恐竜博物館や福井の特産物をPRした。まちづくりに関する意見交換では、自らが楽しんで活動することが最も大切という点で一致した。

5日は吉村美栄子知事を表敬訪問した後、花笠を手に浴衣姿で優雅に舞い踊る「山形花笠まつり」に飛び入り参加。県庁の愛好グループに合流して踊った。参加した福井の若者は「貴重な体験ができた」などと話していたという。

若者の地域活動 山形に学ぶ



福井県と山形県での地域活動について情報交換する若者たち＝4日、山形県南陽市で

「行政がきっかけを」

交流事業 鯖江の団体提案

福井県と山形県の若者交流事業が八月初旬、山形県内で開かれた。福井県代表として参加した鯖江市の地域活性化団体「学生団体with」の松田勇介さん(三三)坂井市は

「行政は若者が地域活動するきっかけをつくってほしい」と語る松田勇介さん＝福井市で



「山形県の事例を参考に、若者が地域活動に動くきっかけづくりがもっと必要」と提案する。事業は、若者の交流や地域活動の活性化が狙い。地方の十三県知

事で行く「自立と分なく、若者が動きだす散で日本を変える。きっかけをつくってほさと知事ネットワーク」と語る。ク」に加入する福井、山形県の方言を交えた山形両県が初めて企画た寸劇を披露する。当地ヒーロー「アルカデ福井県の大学生や地域活動に関わる二十、松田さんは「子三十代の十六人が子どもたちに絶大な支持加。四、五日、山形県を得ていて驚いた。福南陽市の若者四十人と井県にもあれば良いイベント運営を手掛思う」と考える。意見交換した。山形と福井県の参加者は、インターネット交流サイト「フェイスブック」などで情報交換を始めた。松田さんら地域を活性化する計画を募った事例を知った。松田さんは「福井県にも地域活動をした体の連携や交流も進めたい」と意欲を語った。(山内悠記子)

「山形県の事例を参考に、若者が地域活動に動くきっかけづくりがもっと必要」と提案する。事業は、若者の交流や地域活動の活性化が狙い。地方の十三県知事で行く「自立と分なく、若者が動きだす散で日本を変える。きっかけをつくってほさと知事ネットワーク」と語る。ク」に加入する福井、山形県の方言を交えた山形両県が初めて企画た寸劇を披露する。当地ヒーロー「アルカデ福井県の大学生や地域活動に関わる二十、松田さんは「子三十代の十六人が子どもたちに絶大な支持加。四、五日、山形県を得ていて驚いた。福南陽市の若者四十人と井県にもあれば良いイベント運営を手掛思う」と考える。意見交換した。山形と福井県の参加者は、インターネット交流サイト「フェイスブック」などで情報交換を始めた。松田さんら地域を活性化する計画を募った事例を知った。松田さんは「福井県にも地域活動をした体の連携や交流も進めたい」と意欲を語った。(山内悠記子)